

(10) 四 国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はこのところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

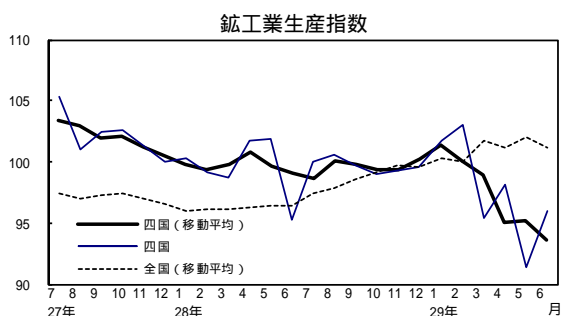
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 5 月)	今回 (平成 29 年 8 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	<u>このところ弱含み</u>	
個人消費	足踏み	<u>底堅く推移</u>	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はこのところ弱含んでいる。

4～6月期には、化学は、定期修理等を受けカプロラクタム等の生産減から減少した。電気機械は、蓄電池等の生産減から減少した。食料品は、レトルト食品等の生産増から増加した。はん用・生産用機械は、固定式クレーンの納期のタイミング等から減少した。非鉄金属は、定期修理等を受け電気銅等の生産減から減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

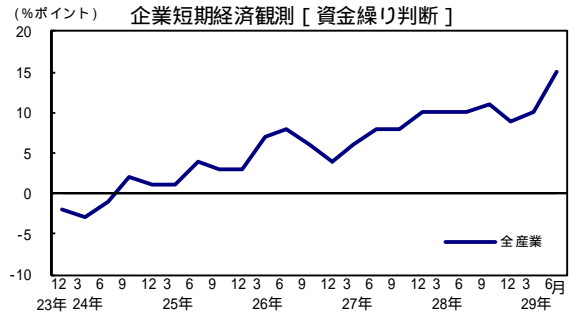
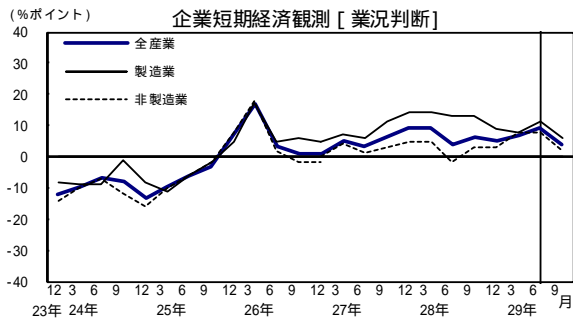
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
化学	22.9	1.4	6.4	5.3	11.1	7.6
電気機械	15.8	1.9	10.8	3.4	6.3	4.3
食料品	10.5	3.5	2.4	0.3	1.5	6.2
はん用・生産用機械	10.0	10.4	3.3	36.2	24.0	19.6
非鉄金属	8.0	3.0	1.7	0.4	0.4	11.1
鉱工業	100.0	0.8	4.9	2.8	6.9	5.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4～6月期、6月は速報値

(10) 四国

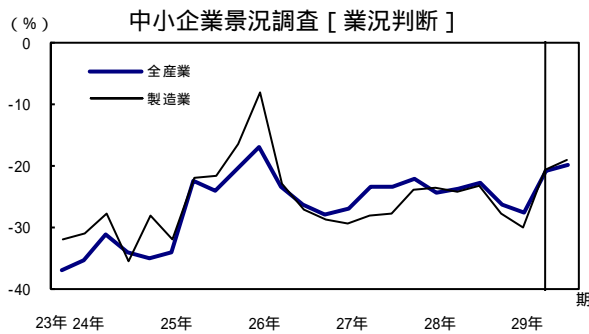
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

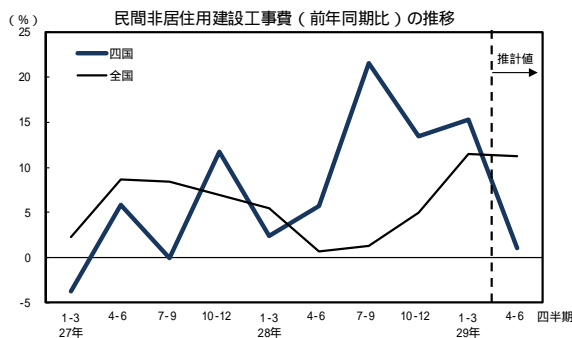


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「閑散期の夏場は、物量が減少する。この閑散期に他社は安価な運賃で受託し、荷主・運送業者双方が少しでも採算性を向上させて利益を確保しようとする動きがみられる(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばい。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	13.0 (4.1)	12.4 (10.7)
製造業	11.5 (5.1)	6.3 (6.1)
非製造業	15.1 (2.6)	21.2 (17.2)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(備考)29年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.9%増、5月は同0.4%増、6月は同0.1%増となった。

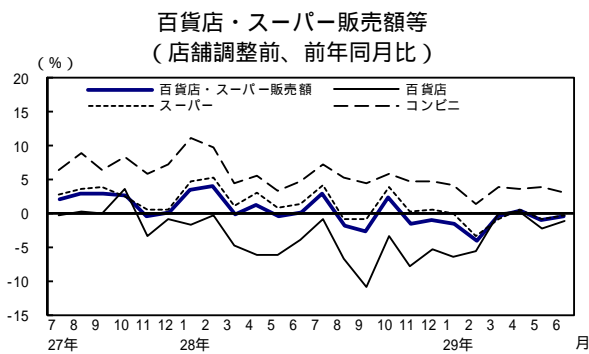
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、衣料品が振るわなかったものの、総菜などの飲食料品や食器等の家庭用品に動きが有り、前年を上回った。5月は、紳士服、婦人服ともに全般的に動きの鈍い衣料品や、婦人靴やハンドバッグ等で夏物の動き鈍かった身の回り品等から前年を下回った。6月は、化粧品が好調に推移し、時計、美術品などの高額品にも動きがみられたものの、引き続き衣料品や身の回り品の動きが鈍く、前年を下回った。

スーパーは、4～6月期は、飲食料品で総菜等が堅調に推移したものの、紳士服、婦人服などの衣料品が鈍く、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「猛暑の影響で、冷たい飲料やアイスの動きが非常に好調 (コンビニ)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

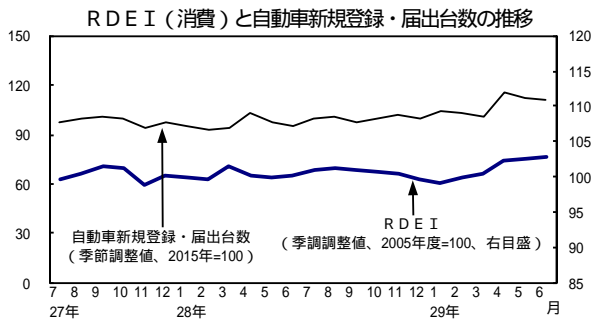


	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	2.8	1.9	0.4	0.1
百貨店・スーパー(*2)	0.2	0.6	1.0	0.3
百貨店(*2)	1.0	0.4	2.2	1.0
スーパー(*2)	0.1	0.7	0.7	0.1
コンビニ(*2)	3.5	3.6	3.9	3.0
乗用車(*3)	14.8	11.2	15.5	17.3
(季節調整値)(*3)	2.3	13.9	3.0	0.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

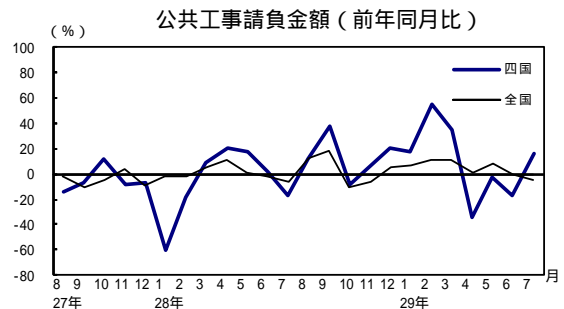
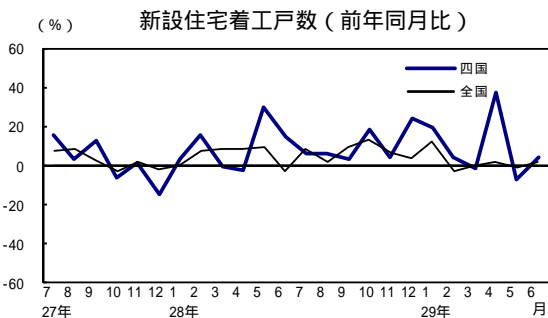
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比) (%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回っているものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



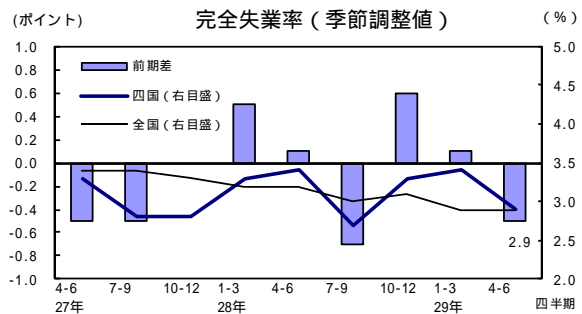
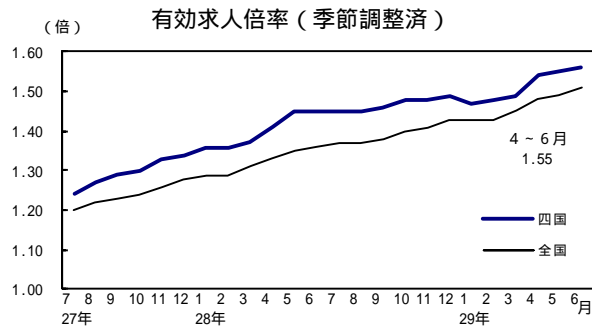
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[雇用関連 (現状)]

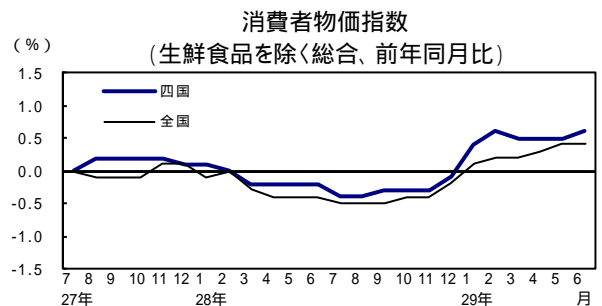
「前年と比べて、普通科系高校の求人数は伸びていないが、実業系高校はかなり伸びているようだ。企業は、電気・機械系の学生を喉から手が出るほど欲している (民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数	38	27	30	42	9
(前年比)	5.6	42.6	31.8	13.5	18.2
負債総額	42	67	67	115	24
(前年比)	47.8	19.4	43.1	12.1	146.5



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・法人部門(営業)は横ばいだが、個人部門(インターネット)は好調である。店頭の不振が続いている(旅行代理店)

<先行き>

・取引先企業の資金需要動向は、運転資金・設備資金とも大きな変化は見られず、業績はおおむね安定傾向にある。先行きにまだまだ慎重な姿勢が感じられる(金融業)

